

●京都大学防災研究所宇治川ラボラトリーに中聖牛モデル設置用主柱（7mもの）などを運搬

2015年に竹蛇籠を初めて木津川に設置を初めて行ってから京都大学防災研究所（宇治川ラボラトリー）にモデルの設置をもって一連の取り組みが終了となります。そのモデルの木材を12月22日に中型トラック（4tロング）で運び込みました。当日は朝早くから木材を積み込み、午前中に運び込みました。防災研究所の正面の駐車場の北面に設置されることになっていましたので、竹蛇籠の置き場に近いところの下ろしておきました。ルートに沿ってでしたのでスムーズにことが運び込みました。

●竹サインペンの打合せ

里山の会の今年の十大ニュースには選ばれませんでした。竹サインペンの製作には多くの皆さんに関心を持っていただいています。来る1月13日は滋賀県庁で関西連合会にエコネット近畿の紹介で説明会に伺うことになっています。

京都大学宇治川防災研究所(ラボラトリー)

中聖牛用の木材搬入 12月22日



京都大学宇治川防災研究所（ラボラトリー）

中聖牛用の竹蛇籠が出来上がっています



中聖牛モデルの組み立ては1月28日10時からです。沢山お手伝いをお願いします。主柱7mを4mの高さに持ち上げ床を組み竹蛇籠玉石を人海戦術で詰め込みます。

●しめ縄作り 21人の参加で見事な出来栄

毎年理事長が音頭を取って準備を進めていただき、里山農園の年末の取り組みとして定着しています。ご参加いただいたのはスタッフを含め21人もの方々で、にぎやかにもち米藁で注連縄を編みました。藁のしごきや適度な湿り気などを教えてもらって写真のように作り上げました。これで一家安心を祈願する邪気払いができました。

●里山の会 Facebook（フェイスブック）に加入

里山の会はこれまでホームページが唯一の通信広報手段としてきました。結成してこの方、通信広報手段も多様になってきてこれだけでは不十分との声が聞かれますのでFacebookに加入を試みました。まだまだ不慣れな所もたくさんありますがこれから、週刊ニュースを中心に多くの方々に届けられるようになることだと思います。



手作りのしめ縄作りませんか

これまで毎年しめ縄づくりを行ってきました。今年もみんなひと時を楽しみたいと思えば誰でも簡単に作れます。新年を手作りで迎えましょう。終わらぬ用意出来ました。



12月25日(日) 集合10時12時 午後は自由参加

参加申し込み 住所 氏名 年齢 電話番号 メールで申し込みください 169x257@yama-shiro.jp 参加人数 25人 会費無料であります 受付開始12月20日～23日 講師 里山の会理事長 大村幸正



●2022 年度里山の会 十大ニュース 順不同です

22 日に提案の 28 項目を多少修正し、三つの追加項目を加えて出席者 7 人がそれぞれ 10 点を挙げて決定をしました。選考者は、選考委員 有田勉 太田敏之 大村幸正 播川司 金田徹 森島保 山村武正の 7 名でした。

- 1 中聖牛 5 群 1 9 基出来上がる 竣工式 4 6 人で
- 2 長年活用した里山の会事務所が仮事務所に移転
- 3 桂川（嵐山・世界遺産）に竹蛇籠設置全面協力 京都新聞社 梵語で紹介
- 4 昨年に続いて同志社大学サッカー部 2 日間 3 0 人が里山農園設にボランティアに来所
- 5 フィランソロピー協会からの寄付（50 万円）の申し入れ
- 6 里山農園に白土山への周遊通路 1000m 完成
- 7 中聖牛 NHK/TV で放映される 精華町 20 km 地点
- 8 ホタルの集いと里山音楽会ウクレレや火起こし器製作で楽しむ
- 9 初めてヤマトサンショウウオ生育調査実施 京都府・京田辺市職員も出席
- 10 イタセンパラの復活を目指す秋の講演会 39 名の参加で成功させる

十大ニュースに選出されたものは、中聖牛関係が 3 点、里山農園関係が 2 点、重点をかけた取り組みが評価されました。特に生物関係 3 点が選出されたのが特徴でした。また 10 点には選ばれませんでした竹幅精製機試作の苦心には皆さんが称えました。

●2022 年 12 月 18 日の最終事務局会議は久々に熱のこもった論議が展開されました。

七草摘みと七草粥の取り組みで、七草粥とともに芋粥など粥に加えて豚汁を提供しようという提案されて、したいという人がいるから実行しようではないか、いや趣旨とは違うのではないかと意見の違いで議論がありました。これまでは七草が農園で採取されるので実行してきました。特に七草を手にとることができ、厳しい冬を乗り越える植物たちのたくましさを学ぶ場として開催してきました。厳しい議論の後 森幾久子さんが前日から御餅つきをしていただいてぜんざいをご持参くださってみんなで美味しくいただいて事務所会議を閉めました。

●新年 6 日恒例の「七草摘み、七草粥」プログラム決定 9 時会場整備に集合 里山農園 10 時に開会式

参加費 一人 500 円（会員 400 円大人／子ども・幼児無料）
参加受付人数 50 人 先着優先
受付開始 1 月 1 日午前 6 時から 住所・氏名・年齢・メール 電話番号必須

5 日に参加可否と実施連絡はメールによって連絡 場合によっては電話にて問い合わせてください。駐車場は 20 台あります。

古代衣装（平安時代頃・大人と子ども用）寄付大歓迎・七草摘みで着用）

少雨実施 12 時 30 分終了 午後は自由時間（白土山洞穴探検ルート）

おもちなどの持ち込み歓迎 おせち余り持ち込み歓迎 炭火用意 焚火で焼き芋可能。

お椀作り（竹製 焼き印付け）前日の午後里山の会で実施しますのでお手伝いにお越してください。また七草摘みのための生育地調査も実施しますので、関心をお持ちの皆さんのご参加を呼び掛けています。

七草摘みと七草粥を楽しもう
2023年1月6日(金)

プログラム

9時 スタッフ集合
10時 普賢寺小学校集合
10時15分 開会挨拶
自己紹介
乾杯
10時30分 七草摘み
11時15分 料理
11時35分 野宴投入
11時45分 七草かき試食
12時10分 閉会
12時50分 集合写真
散会

七種を刻むときの囃子言葉

七種ナズナ
唐土の鳥が日本の国に
渡らぬ先に
あわせて ばーたばた

七草の違いやすいもの

●小川芳也さんの松江通信 No. 13

先週の続きですが、流れの速さ（流速）について考えてみたいと思います。流速は一般的によく使用される「マンニングの公式」で表現すると、 $v=1/n \times R^{(2/3)} \times I^{(1/2)}$ となります。ここで、 n は粗度（そど）係数で流れにくさ（摩擦）、 R は径深（けいしん）で水路の平均的な深さ、 I は水面勾配を表します。粗度係数は地質などによって使い分けるのですがここでは仮に 0.020 とします。径深は水路幅を 100m、水深を 2mとすると約 1.923、河床こう配を水面勾配と置き換えると八本杉（宍道湖からの距離は約 26.9km、標高約 31.8m）から尾原ダム上流で斐伊川に流入する大馬木川合流点（距離は約 59.7km、標高約 233.0m）なので、川底の勾配（河床こう配）は約 1/164 となります。よって、 $v=1/0.02 \times 1.923^{(2/3)} \times (1/164)^{(1/2)}=6.0378\text{m/s}$ と流れの速さは1秒間に約 6m進む大きさであることが分かります。時速で表現すると 21.6km/時間となりますので原動機付き自転車の法定速度 30km/時間よりやや遅いぐらい、自転車に乗っている時に受ける風の強さぐらいをイメージしてもらえたらと思います。この続きは次回に・・・

●太田敏之さんの「小笠原旅行の概要」No. 4 目についた動植物

小笠原はほかの場所から遠く離れており、オガサワラノスリを頂点とした生態型ができていて、哺乳類はコウモリ類だけ、両生類はおらず、爬虫類はオガサワラトカゲとミナミトリシマヤモリ（南鳥島）のみだったそうです。

1. モクマオウ(外来種) 防潮林等にするために持ち込まれた木だそうです。山へ行くと、この枯葉が一面に落ちています。松葉の何倍もの長い落ち葉です。林の地面にこの落ち葉が厚く積もるため、他の植物はほとんど生育することができないそうです。
2. ハカラメ(外来種) 崖などに生えています。葉っぱの端から芽と根が出て育ちます。漢字交じりで書くと「葉から芽」、正式にはセイロンベンケイソウといいます。本土では観賞用として普通に売られているようで、私も帰ってきて友人にこのことを話すと「これかい」と見せられました。

3. グリーンアノール(特定外来種)

全長 10 センチ余りのきれいな緑色をしたトカゲですが、島固有の昆虫をほとんど食べ尽くしているようです。海岸などにこれを捕獲するために、大きさがゴキブリホイホイの 3 分の 1 程度のトラップがいくつも設置されています。

4. アオウミガメ

本土ではアカウミガメですが、小笠原ではアオウミガメが生息しています。私は行きませんでしたが、港近くに東京都の水産センターがあり身近に見られるそうです。各地の砂浜の奥に見られる凹んだところはアオウミガメの産卵した場所だそうです。最終日のクルージング中、アオウミガメが泳いでいるところを見ることができました。

●1 月の取り組み

元旦 七草参加申し込み開始

3 日 甘南備山初登山

4 日 初顔合わせ 事務局会議

5 日 パソコン教室 七草前日準備

6 日 七草摘み七草粥 初顔合わせ

木津川枯草集草作業 40 か所 16000 m² 焼却

炭焼き原木運び込み 炭焼き釜詰込み 着火

木津川希少種生育調査管理業務整理調整

京都府交響プロジェクト事業報告書まとめ

2022 年度事業報告案作成 2023 年度事業計画 第 1 次案作成

フィランソロピー協会イタセンパラ事業報告書作成

28 日 京都大学防災研究所 中聖牛組み立て

29 日 中聖牛玉石投入 完成 竣工式?

会員の皆様へ

コロナと異常気象とウクライナ戦争、国葬問題と大臣の更迭と出来事の多い一年でしたね。里山の会も会員数の減少が特徴に表れた年でした。特に事務所の移転がありました。苦労苦心を重ねて会誌 53 号まで進められたのは、会員皆様のご協力の賜物でした。来る新年もよろしく願いします。

理事長 大村